

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名		
申請者名	荒 ひろみ	
連絡先 TEL : 090-2272-6753 FAX : 022-265-5002	E-mail : hiromi-ara@ara-sougou.com	

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	歩き続けているお母さんへ ～わたしたちの軌跡、そして未来へ～
事業の目的	「人は誰でも主体的に生きることができる」との理念のもとで実践されてきた様々な取り組みを再確認し、改めて次世代にこれを橋渡しする。
事業の具体的内容	<p>開催日時:2019年7月28日(日)9時半～15時 開催場所:フォレスト仙台(第2フォレストホール、第7会議室) 参加者数:173名(スタッフ含む) 内容は以下のとおり※別紙写真参照</p> <p>1、療育フォーラム開催</p> <p>①発達が心配なわが子と歩み続け、子どもが成人してもなお悩み続ける親たち。わが子の障がいを知り、落ち込んだあの時、そこから自分はどのように歩み始めたのか、誇り高く生きようと思ったのかを振り返る</p> <p>座談会 「なのはなの原点とこれからも伝え続けたいこと」 阿部悠紀子先生、松野安子先生、木村美矢子先生</p> <p>講演 「なのはなの療育、そして未来の子どもたちへ」 加々見ちづ子先生</p> <p>②「成人した子どもの思い」を直接聴く 青年の主張</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にお願ひした7名の青年たちに登壇いただき司会者から現在の生活や日頃思っていることを伝えてもらう。(青年たちの障がいの特性や日頃の生活を知る施設職員たちにサポートしてもらった。) ・7名のやり取りを経て、会場に参加していた青年たちからもそ

	<p>れぞれに手が挙げられて、日頃の思いが語られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場全体から青年たちが自由に語る姿は、生き生きとして、堂々としていて、母親をはじめとして家族、施設職員、ボランティア、会場スタッフを感動させる。 <p>2、写真展</p> <p>①「なぜ、こんなに輝いているのか!？」</p> <p>1976年外記丁教会の一室から始まった障がい児母子通園「菜の花共同保育室」から現在の児童発達支援センター「仙台市なのはなホーム」までの42年間の母子と職員、ボランティアの写真をから抜粋して掲示、32年分のアルバムを展示</p> <p>②「この思いに支えられて」</p> <p>母子通園(当時)から児童発達支援センターとなったこれまでの日中活動の様子や支援者たちの療育に込めた思いを、随筆、書籍、文集で振り返る。</p> <p>これまでに紹介されている随筆(河北新報夕刊掲載文)、の掲示と文集42冊、書籍7冊を展示した。</p> <p>3、作品展</p> <p>①子どもたちの作品・母たちの作品の展示</p> <p>出版した本、絵画、書、さおり織、活動の写真</p> <p>②卒園母たちバンド「ピロロ」によるコーナー</p> <p>会場の関係で生演奏ができなかったため、事前に「仙台市なのはなホーム」でコンサートを開催し、その映像をバックに放映しながら、ステージでのピロロのパフォーマンスを楽しんだ。青年の主張の盛り上がりから、自主的な青年のダンスへの参加や、アカペラでの生歌、会場全員が大盛り上がりとなり、最後は全員合唱で幕を閉じた。</p> <p>③これまでなのはなで製作されたDVD上映</p> <p>4、寄せ書き</p> <p>当日参加した青年たち、母たちの写真やコメントをその場で撮影し、会場に掲示した。</p>
<p>活動の開始から完了までの流れ</p>	<p>1、流れ</p> <p>2018年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有志集まり 5.10、6.14 ・企画立案 7.10、8.21、9.20 ・協力者要請 9.25、11.13、12.7 <p>2019年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金申請 1.20 ・準備実行委員会 1.22、2.26、3.26 ・作品依頼 4.23 ・案内状発送 5.28 ・会場打合せ 6.3、7.22 ・写真準備 6.17、6.25、7.4、7.11 他 ・参加者集計 6.27、7.24

	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会打合せ 6.27、7.3 ・掲示物準備 7.21、7.22 ・最終確認 7.24 ・療育フォーラム当日 7.28 ・お礼状と作品返還 7.29 ・お礼状発送と反省会 8.6
<p>活動の成果と 教訓</p>	<p>今回の最大の成果は、障がいに関係なく、人は誰もが自分の言葉を持ち伝えたいと思っている。その思いをみんなで感じる事ができたことです。</p> <p>今回参加してくれた青年たちが寄せてくれた感想を一部紹介します。</p> <p>「みんなのひとりひとりのこえが まえにでたのもよかった みんな いいたいことがある それを きこうとしてくれることが ひととしての いちばんの よろこび</p> <p>みえない こえを みえるようにしてくれた それが とても うれしくて あとからも また うれしくなる」 2019.8 いがらし みなみ(抜粋)</p> <p>「たくさんのひとが みんなたのしい という きもちになっていた たのしいきもちを たのしいのを もっと たのしくする いろんなことが あるけど また がんばろう という きもちにする</p> <p>たくさんの あかるい こえが きこえてきた たろうに たくさん はなしかけてくれた たろうの こえは いうことはできないけど みんなは ことばを きいてくれた みえる ことばに してくれた</p> <p>たろうは ちゃんと たろうだった」 2019.8 いがらし たろう(抜粋)</p> <p>この青年たちは集合写真中央の車いすの二人です。指文字により自分の思いを表現しています。お母様が感想文をお送りくださいました。今回の目的である 「人は誰でも主体的に生きることができる」との理念のもとで実践されてきた様々な取り組みを再確認し、改めて次世代にこれを橋渡しする。」 先程の感想文を読んで、しっかり青年たちの世代に橋渡しされていることを感じ、嬉しくて心が震えました。</p>

今回の企画は当初、障がい児(者)の母たちが、母たちによる、母たちのための応援となるよう企画しようとしたものでした。これまでの子育て(若かった母、かわいいわが子)、支えてくださった方々への感謝の気持ちをここでもう一度振り返り、今の悩みをひとりで悩まないように、語り合いの場を設けたいというものでした。

しかし、話し合いが進む中で、母たちの悩みの多くはわが子の生活であり行く末であることに気づきました。そこで「誰でも主体的に」の『誰』が気になりだし、『母』?『わが子』?母とは子がいてはじめて母というのであって、母と言っている時点で結論は見え『子どもたち』の声を聞いてみようとなりました。

療育フォーラムは3部構成となり、午前から午後にかけての一日企画となりました。参加者の方々は午前中の先生方のお話で帰ってしまうのではないかと実行委員は心配したのですが、当日になってみると、午前中じっくりと話を聞いていろいろな思いにあふれ、お昼休みには第2会場で懐かしい写真、びっくりするような作品の数々を見たり、懐かしい方々とお話しして、午後からは随分リラックスし、青年たちの自由で屈託のない表現にくぎ付けとなり、帰るところか主会場の外にいらした方々もみんな吸い寄せられました。それほどに青年たちの主張が面白く、母たちバンドのパフォーマンスは楽しいものでした。

私(母)たちは、母が元気だと子どもも元気になることを知っています。「なのはな」で実感したのです。

今回「子どもの成長」を感じることで母の悩みを和らげることを改めて感じました。ここでの「成長」とは人に気づき(関心を持ち)、青年期となり仲間をつくり「自分らしく」思いを発信し、生きている姿です。母の悩みは尽きないけれど、わが子が仲間とともに助け合いながら成長している姿、またそれを支えてくださる方々の存在に、これほどの元気と力と勇気をもらい、子どもたちの堂々と生き生きとした笑顔にこんなに感動する。たろう君の言葉のとおり「頑張ろう」という気持ちになります。これは母たちだけではなく、会場にいた全員が感じたことです。

「人が生きていく当たり前」とは何か?

人に気づき、人と関わりたいと思い、思いを伝え、思いを受けとめ人(仲間)とともに生きていくことなのかなと、障がいに囚われてその当たり前を否定しているように思います。

『わが子』に感動する機会がもっとあればいいのになあと感じます。簡単なことのように、母たちは時々とても難しく感じます。悩んだ時、今回の療育フォーラムを思い出し、子どもたちの言葉を聴きたくないのでないかと思えます。

最後に、今回のフォーラムが盛り上がったもう一つの理由として展示物があります。

	<p>今回展示スタッフは母たちではなく施設職員に協力してもらいました。スタッフのこだわりは、その人らしい表現を感じてもらうこと。形にした作品が一番輝く見せ方にこだわり飾りつけを考えました。同じくらい、形にならないその人の思いを、その人らしい表現方法で発信してもらうことそれを会場の方々に感じてもらうことにも工夫を凝らしました。</p> <p>とても難しい取り組みに思えて前日まで、いえ本番まで悩んでいました。母が援助者だと子も甘えが出たり母の思いに応えた姿を表現してしまいがちです。「青年になった素の自分」を表現してもらいたい、それを母たちに見てもらう。これらのこだわりが温かく見守られているような会場の雰囲気を作り上げ、前述の青年の主張での「生き生きとした、堂々とした姿」を見せることが出来たと思っています。</p> <p>障がい者の青年期の支え方の難しさと楽しさを両方味わいました。</p> <p>障がい者の青年期への支援は、ただグループホームが整備されれば終わりではなく、青年期の思いを受けとめる体制づくりと生活の質を考えた取り組みがまだまだ不十分だと感じました。</p>
<p>今後の展望など</p>	<p>過去にロサンゼルス療育センターを見学した時に、ダウン症児や肢体不自由児のとても素敵な表情の写真が飾られていて惹き付けられたことがありました。その時の感動を青年の主張での子どもたちの輝いた表情の写真で思い出しました。</p> <p>今回のフォーラムの講演内容、「なのはな」がこだわった療育の方法論をコンパクトにまとめた掲示物、展示した関連図書の資料、子どもたちの写真を盛り込んだものを一冊に纏めたいと考えています。</p> <p>また、今回のようなフォーラムの開催は難しいのですが、20人程度の規模で青年期の生活を考える関係者との勉強会を企画していきたいと考えています。</p>

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	100,000円	
資料代	51,000円	参加者資料代500円/一家族
寄付金	51,481円	
その他印刷物協力		
合計	202,481円	

■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
フォーラム会場代	会場代 駐車場代	80,000円	111,224円
講師代		30,000円	0円
郵送代	82円×277通+510円 48通は手渡し	30,000円	23,224円
印刷代	案内状、案内チラシ、 当日配布資料、掲示用写真印刷	50,000円	0円
文具 (掲示用・案内状)		10,000円	26,541円
その他	会場飲み物・氷 講師・スタッフ ボランティア 弁当・飲み物	0円	41,492円
合計		200,000円	202,481円

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

- 1 福祉活動助成金 助成活動報告書
プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。
- 2 領収書のコピー (郵送)
- 3 成果物 (活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)

歩き続けているお母さんへ

ありがとう なのはな

～わたしたちの軌跡、そして未来へ～



なのはなの実践を記録し続けた『なのはな文集』その表紙たち

プログラム

★ ステージイベント

(第2フォレストホール)

・10時

オープニングセレモニー

・なのはなのうた (DVD 佐藤 由樹さん)

・10時15分

療育フォーラム

・座談会

「なのはなの原点とこれからも伝え続けたいこと」

阿部悠紀子先生 松野安子先生 木村美矢子先生

・講演

「なのはなの療育、そして未来の子どもたちへ」

加々見 ちづ子先生

《 休 憩 》

・13時～14時

青年の主張

(なのはな卒園の青年たち)

・14時～

ピロロコーナー

14時30分

(卒園母たちバンドによるコーナー)

・14時45分

エンディングセレモニー

・閉会の挨拶

お詫び

会場の関係で生演奏は難しく、「なのはなのうた」と「ピロロコンサート」は、DVDでの演奏となります。大変申し訳ありません。

★ 展示スペース

(第2フォレストホール 第7会議室)

- ・菜の花共同保育室からなのはな共同保育園、そして現在のなのはなホームまでの写真掲示。
- ・思い出のアルバムコーナー
- ・DVD上映 (なのはなの子ども達の笑顔)
- ・なのはな関係者の著書や作品、活動の紹介